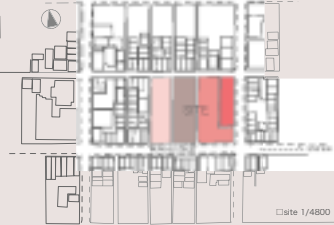


ツキシマ ナナメ プロジェクト

elevation

□ 月島の現状と歴史

月島は、隅田川が東京湾に注ぐ河口に位置する。路地を中心とした住居の場と地場産業が混在したまちとして、独自の発展をしてきた地域である。近頃は、高層ビルも目立つようになってきたが、路地のある地域では、まだ木造の建造物が多く残っている。月島地区は明治時代後期から大正時代にかけて埋め立てられて地区であり、計画的に現在の街並が築造された地域である。これら路地とそれに面した独特の長屋風景は、下町の情緒をかもしだしている。路地に面する地域では、現在の法律制限により、立て替えに際して、従前の建物規模の確保が難しくなることなどから、個別の立て替えが進んでいません。そのため、この地域では住環境や防災面において、多くの課題を抱えている。これからのまちづくりは、月島らしい路地空間を活かしながら、人口の回復と災害に強いまちを目標としたまちづくりが大切である。



□ 月島の問題点

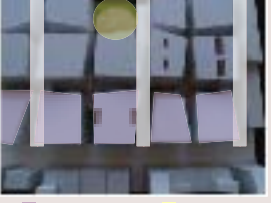
- ・住環境
- ・防災面
- ・個別の立て替えが進まない
- ・高層ビルにより下町の雰囲気がかわされている
- ・入りにくい路地
- ・使い道のない細くて暗い路地

□ 全体の敷地をa-fのタイプで構成

- a type
- b type
- c type
- d type
- e type
- f type

□ 敷地の全体計画

1. 街区に沿って現状の戸数とほぼ同じの戸数を均等に配置。
2. 路地以外の車も通れる大きな通りには現状では店が建ち並び商業が営まれている建物が多かったため、現状の計画と同じように店舗を配置。
3. 現状にある路地はそのままの形状で残している。

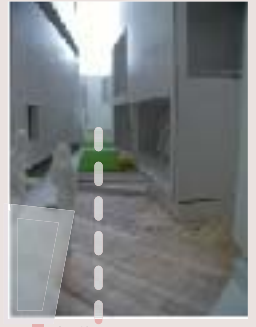


2. 店舗 8. 空きスペース
3. 現状の路地

4. 計画の趣旨でもあるように、建物間の間の境界線をなくしている。このような密集地域に塀で境界線を作るととても圧迫感があり、無駄なスペースになってしまう。このスペースを共有することで少しでも圧迫感をなくし、共有面積を広げ、オープンスペースの積極的利用を促している。
5. 全体の配置計画として、あらかじめ建物間に1400mmの間隔を空けている。カットされた部分でオープンスペースをつくる計画であるが、それでは現状と変わらない、人が通り抜けることができない部分が出てしまう。人間的なスケールにするためこの最低限の間隔を空けた。寸法は両面壁で人と人、人と車いすの人が普通にすれ違うことのできる寸法に準じている。
6. カットされた部分に部分的にアクションを起こしている。その部分がデッキ、タイルだったり低草が生えていたり、オープンスペースが単調にならないように計画されている。



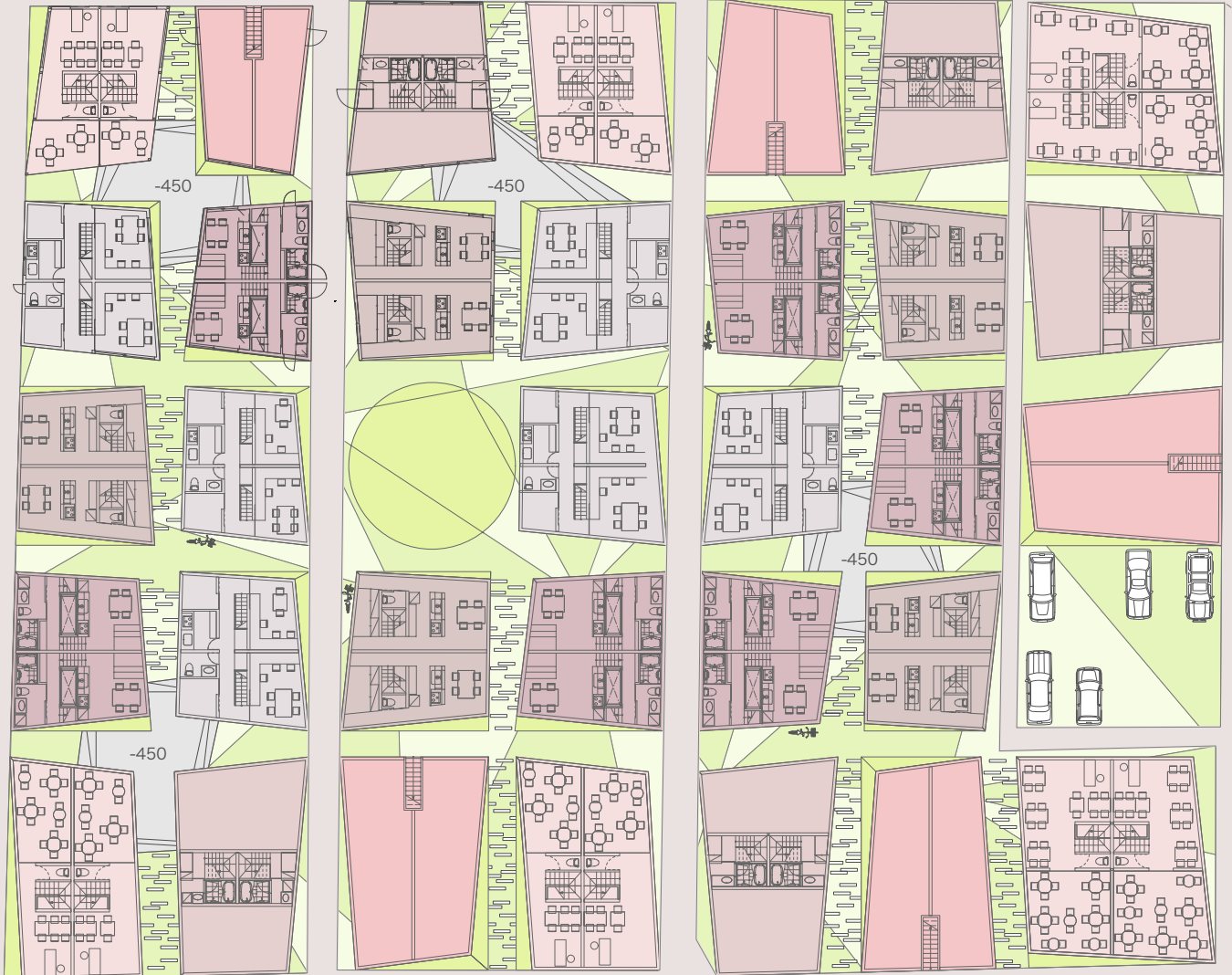
7. 4棟間にできたオープンスペースを部分的に凹にすることでそこに平らな部分とは違うたまるスペースができる。その凹の部分に接しているカットされた上記の部分でデッキにしたりすることで、その段差に座ってお茶を飲んだりなどの、4棟間の交流の場となる。家での行為がオープンスペースにも飛び出し、オープンスペース全体が家の中の一部ようになる。
8. あらかじめ隣棟間隔を設定した部分とカットされた部分でオープンスペースを計画したが、このような密集地域では防災面でオープンスペースが確保できたとはいえない。そこで敷地の部分をオープンスペースに変えることで、空間が単調にもならず、防災面でも一時的な避難場所としてつかうことができる。今回の計画では、大きなオープンスペースとしてこの地域の集会所としても利用できるスペースと駐車スペースを計画した。



4. 境界線をなくす
6. カットされた部分



5. 隣棟間隔
7. オープンスペース



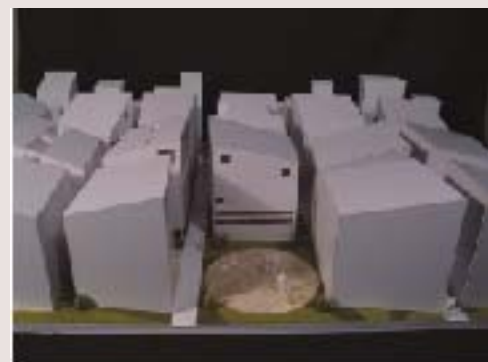
site.1F plan



ツキシマ ナナメ プロジェクト

elevation

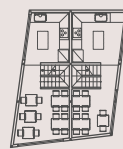
□イメージ写真



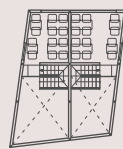
□Atypt-Ftype plan.section



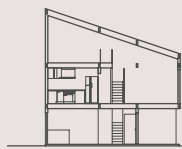
A type
■店舗 (1F-3F)



2F plan



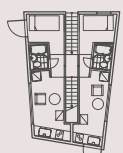
3F plan



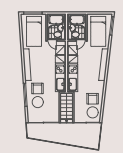
section



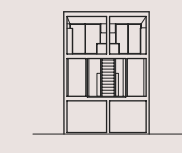
B type
■ゼネラル (1F) + 賃貸住居 (2-3F)



2F plan



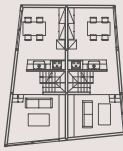
3F plan



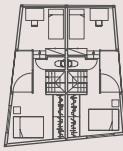
section



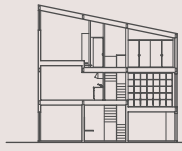
C type
■店舗 (1F) + 住居 (2F-3F)



2F plan



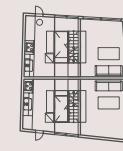
3F plan



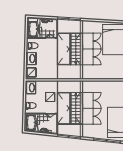
section



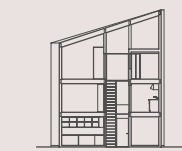
D type
■オフィス (1F) + 住居 (2F-3F)



2F plan



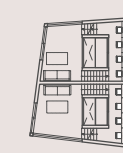
3F plan



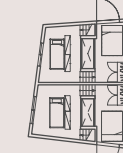
section



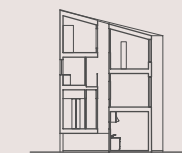
E type
■住居 (1F-3F)



2F plan



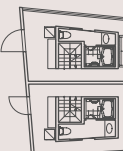
3F plan



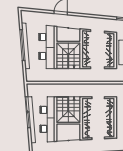
section



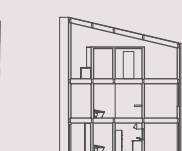
F type
■住居 (1F-3F)



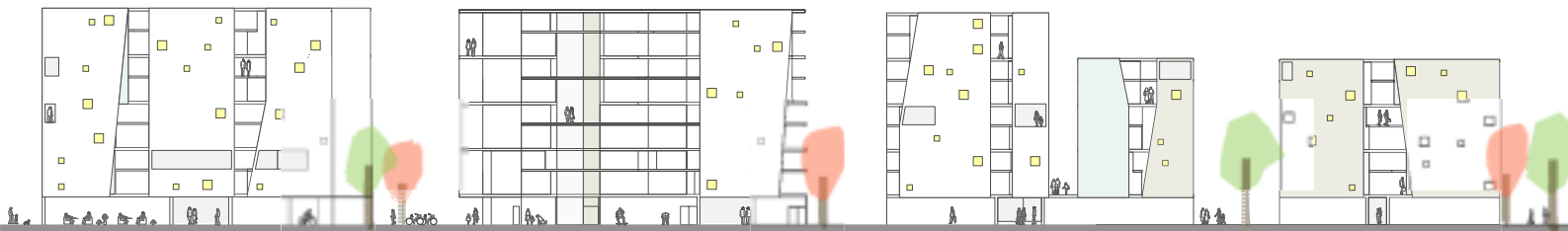
2F plan



3F plan



section



オモサン ナナメ プロジェクト

elevation

□現状の敷地

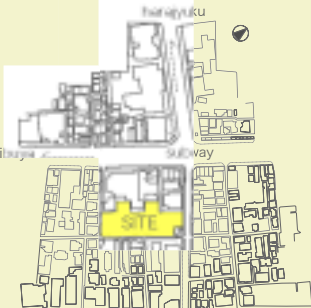
敷地は表参道の地下鉄駅から徒歩約1分のところにあり、近年新しいショップが建築家によって続々と建てられ、第二の銀座とも言われるほどブランド街と変化を遂げている。そのような開発とは違った、表参道の良さを失わないような計画が必要であり、新たな街の風景をつくり出すことが求められていると考える。



現状の敷地



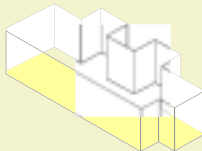
地下駅付近



□ site

□Plazaの計画

敷地全体は建物によって切りとられ空間が大きく7カ所の個性ある広場となっている。この敷地は表参道の駅から徒歩1分の位置にあり、近いという立地の良さからも人の集客が見込める買い物や食事に来るだけではなく、そこで休み、休日のひとつを過ごす表参道へと変わる。



敷地のボリューム



カットする

カットされて残った部分も建物のボリュームとする
切りとった部分はオープンスペースとし住人、来客者などが利用する

□道

1階には敷地内の広場を通して回遊できるように道が計画されている。

□1Fの用途

用途はショップ、レストラン、カフェ、専用の庭があるギャラリー

□店舗の配置

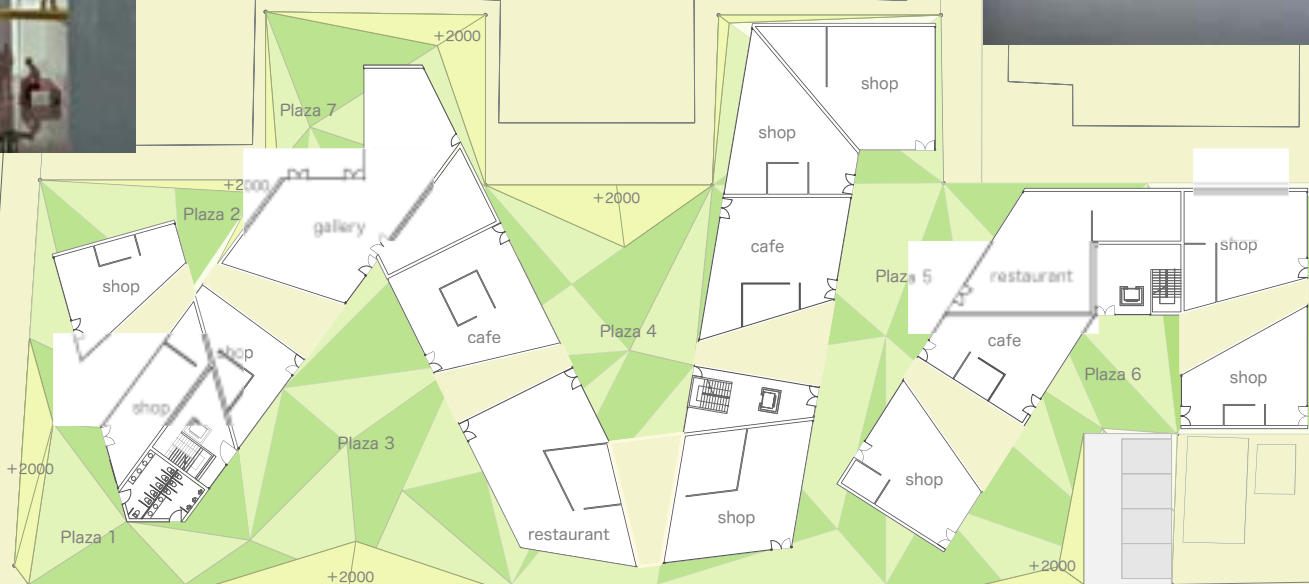
配置とし抜けをつくり、。奥の店、広場の様子が見え行為が次へと続くような仕掛けになっている。



視線のヌケ
建物内のミチ

□広場の特徴

広場の特徴として、隣地境界線を塀で仕切るのではなく、隣地に向かって斜面をつくり、緩やかな境界線をつくっている。この斜面には寝転がったり、座ったりもできる



site.1F plan



1階広場 通路からの様子



1階敷地内の道 1階ギャラリー



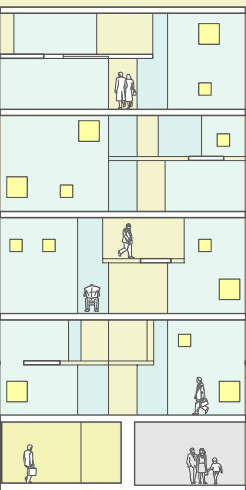
1階広場 通路から店舗を通して広場の様子



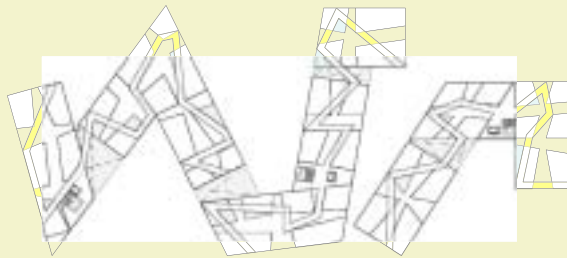
ショップの中ら見た様子 1階カフェ



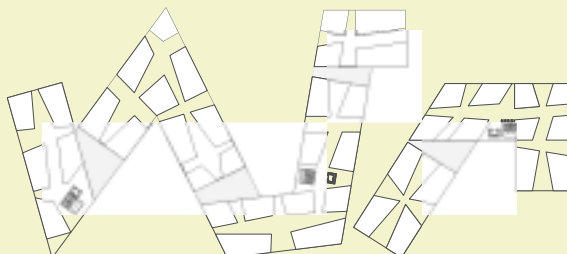
1階広場 住戸内吹き抜け



section scale : 1/400



3F Plan scale 1/1200



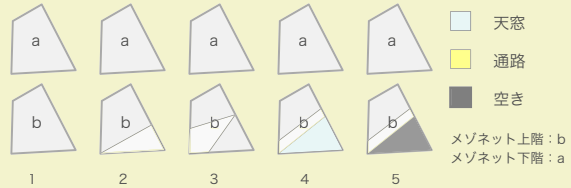
2F Plan scale 1/1200

- 集合住宅の問題点
- ・準接地形、非接地形の場合すべての住戸が庭、テラスを持つことが困難である。
 - ・共有廊下は殺風景で住人同士のコミュニケーションが起こるような空間が少ない。
 - ・共有空間になりやすい非接地形のアクセス方法の提案が必要

- ブロックの構成
- 棟全体でa,b,cの3ブロックに分かれる。aは9層、bは7層、cは5層と表参道の大きな通りに向かって段々に低くなっている。

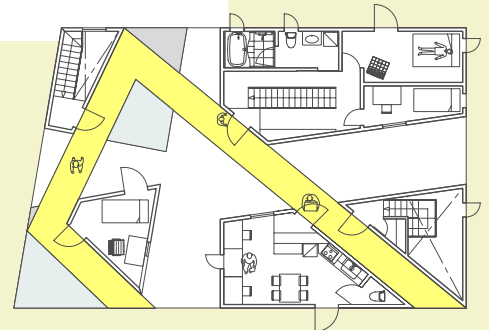
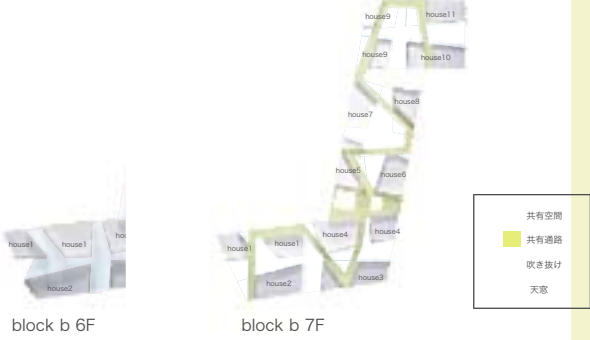


- 住戸の提案
- ・メゾネットの2層で構成され、プランが大きく5タイプの住戸に分かれている。



- ・メゾネットの上階の蛇型の通路プランを変えることで、メゾネット下階のプランを変えなくても、住戸数分のバリエーションを提案することができる。

- 共有空間の使い方
- ・メゾネット型にしたことで各住戸のアクセス通路と共有空間を分けることができより共有空間の使い方の可能性が増えたのではないかと考える。また新たなアクセス方式の提案にもなる。
 - ・共有空間の関係として、二つの空間は完全に壁で分けるのではなく、オープンなブリッジによって互いに意識できる関係になっている。
 - ・共有空間、通路に光を取り入れるため共有空間には天窓の吹き抜けがある。
 - ・住戸内に光を取り入れるためメゾネット下階の天井の一部を天窓にして、光を取り入れている。



block b 3F plan scale : 1/300



block b 2F plan scale : 1/300